

### 近隣住民の雑司ヶ谷霊園利用の変化

22018016 大西 明  
指導教員 葉袋 奈美子 教授

思い出 雑司ヶ谷 都立霊園  
ヒアリング調査 地域コミュニティ 公共施設

#### 1. 研究の背景と目的

明治7年9月に開設した雑司ヶ谷霊園は、2024年で開園150周年を迎える。東京都建設局によると、青山・谷中・染井霊園において「霊園」と「公園」が共存する空間への再生に取り組んでおり、雑司ヶ谷霊園（以下 霊園）も再生事業に着手する予定だ。再生計画には「利用しやすく、親しみやすい霊園を目指して」という目標が書かれているが、現時点で利用者にとってどのような場所であるかということは述べられていない。

本研究では、雑司ヶ谷霊園で過ごした思い出話を近隣住民や霊園利用者から集め、それを元に雑司ヶ谷霊園と周辺に住む人々の生活空間としての関わりを考察する。

2023年11月から12月にかけて、霊園周辺の石材店や花屋を営む方々を中心に、ゆかりのある方々を対象として、ヒアリング調査を実施した\*1)。霊園にどのくらいゆかりがあるか、自身や家族が子供時代にどのように利用していたか、現在はどのように利用しているかといったことを中心に、それぞれの思い出話を伺った。

#### 2. 雑司ヶ谷霊園の変遷と地域での位置付け

霊園は、将軍の「御鷹方御組屋敷」（お鷹部屋）跡地を、明治7年に霊園として整備し、甲乙の2種類の区画が提供された。区画の広い甲種には明治期に活躍した人々が埋葬されている。その後徐々に拡張していったことで現在の形となった（表1）<sup>1)2)3)</sup>。

表1 雑司ヶ谷霊園関連年表

年月	内容
1874 (明治7) 年9月	雑司ヶ谷墓地の開設
1876 (明治9) 年	東京府への移管
1889 (明治22) 年	東京市への移管
1923 (大正12) 年	関東大震災 (周辺の宅地化進む)
1935 (昭和10) 年	雑司ヶ谷霊園に名称変更
1938 (昭和13) 年	崇祖堂設置。コンクリート塀の設置
1945 (昭和20) 年	東京大空襲。
1962 (昭和37) 年6月	墓所の貸付停止
1974 (昭和49) 年	都電の系統一本化
1978 (昭和53) 年4月	サンシャイン60開業
1979 (昭和54) 年	広域避難場所として指定
1997 (平成9) 年	東京都による霊園入口の新設
1999 (平成11) 年	墓地万年塀の生垣化 「みどりのこみちの会」結成
2008 (平成20) 年	東京メトロ副都心線 池袋一洗谷間 が開業する
2011 (平成23) 年	東日本大震災
2023 (令和5) 年6月	墓所の貸付再開

#### 3. 住民生活と霊園空間の利用

##### 3.1 生活空間としての位置付け

ヒアリング対象者の中には雑司ヶ谷霊園にお墓を持つ人が少なく、墓参としての利用ではなく生活空間としての係わりが主である。霊園内の空間を特徴づけるものとして、「墓」と「道（通路を含む）」が挙げられる。ヒアリングから抽出された行為・住民の関心事との関係を表2と表3に整理した。

過去には野球やかくれんぼといった遊び場としての利用が多く、霊園を身近なオープンスペースとして利用していたことが分かる。現在では、通勤・通学利用に加え、花を植えて育てる等、霊園の維持管理を、近隣の公園への手入れの参加と類似した位置付けで関わっており、ヒアリング対象者の生活の中に位置付けられていることが確かめられた。また、周辺の都市整備に合わせた利用の変化も見られる。都電の廃止や東京メトロ副都心線の開業により、池袋方面へのアクセスのために霊園を通ることが増えたり、サンシャイン60の開業を機に通り返ることが増えたという指摘もあった。

表2 過去の利用方法と場所

分類	内容	墓	道	木
子供の遊び	野球		●	
	サッカー		●	
	凧揚げ		●	
	鬼ごっこ		●	
	かくれんぼ	●	●	●
	相撲		●	
	スキー	●	●	
	肝試し	●	●	
生き物	虫取り			●
	ブロック塀遊び			
	タヌキ	●	●	
	ヘビ	●	●	
	大量のカラス			●
	ツミ (鷹)			●
生活	オウム			●
	野良犬・猫	●	●	
	焼き芋		●	●
人関係	銀杏を拾う			●
	土葬だった	●		
	火の玉を見た	●		
	浮浪者がいる	●		
	痴漢がいる			
自殺者がいる			●	

